

ジオツーリズムとダークツーリズム

Geotourism and Dark Trousim

井出 明¹
Akira IDE¹

¹追手門学院大学 経営学部
Faculty of Management, OtemonGakuin University

Geotourism is a type of tourism in which tourists explore geographical features or rocks and enjoy the atmosphere of the Earth. At the backdrop of special topography lies the fact that the Earth has experienced several large-scale earthquakes, which is why geotourism is connected with natural disasters. In contrast, dark tourism deals with different types of tragedy and undoubtedly includes natural disasters. In this report, the common element of natural disasters will be used to explore the relationship between geotourism and dark tourism; finally those essentials will also be analyzed.

Keywords : Geotourism, Dark Tourism, Geopark

1. ジオツーリズムとは何か

昨今、ジオパークやジオツーリズムなる言葉が、地質学や地理学の研究者のみならず、広く一般にも知られるようになりつつある。ジオパークは、かつては“地質公園”と訳され、普及運動の初期は地球科学系の研究者が自然科学的な関心に基づき、広く社会に地学的な興味を与えるための場として活用する道を探っていた。しかし、2004年に組織された世界ジオパークネットワーク（GNN）が、地域の文化面も重視したジオパークの多面性を強調したことにより、ジオパークは今や大地をベースにした地域の総合的な探求の対象となっていると言って良い[1]。このジオパークを中心とした大地の営みを享受する観光形態を一般にジオツーリズムと呼んでいる。

2. ダークツーリズムとの接点

ダークツーリズムは、端的に言えば戦争や災害などの悲劇の場を巡る旅を意味し、こちらも近年、急速に認知度を高めている[2]。但し、ダークツーリズムにおいては、単に物見遊山的に現場を訪れるのではなく、犠牲者への哀悼や地域の記憶の承継が目的となることが多い。上記ジオツーリズムとダークツーリズムの間には、直接の関連性がないと思われるかもしれない。しかし、“大地の営み”の中には、地震や火山噴火のような自然災害も含まれており、そこに人の死や集落の消滅などの悲劇があれば、必然的にその場はダークツーリズムの対象となるとともに、ジオツーリズムの範疇にも属することになる。

3. ダークツーリズムとの交錯

理想を述べれば、ジオツーリズムとダークツーリズムの相乗効果が生まれることが望ましい。ジオに関心のある旅人が悲劇の現場を訪れ、地域の悲しみを持ち帰る一方で、ダークツーリストが悲劇の場の地質構造を知り、自然科学的な観点からも災害を理解できるようになれば、地域の悲しみをより深く受け継ぐことが出来るかもしれない。

しかし、現実には若干の懸念があり、以下、順に検討すべき事項を列挙したい。

(1) 被害との関係性

亡くなった方の多寡で悲しみの深さが変わるわけではないが、ダークツーリズムの対象地は、多くの犠牲が発生した場所に多い。そしてその死は、地殻変動の大きさと必ずしも一致するものではない。例えば、中越地震では、1700 ガルという大きな揺れを観測しているが、この地震での直接死の死者の数は 15 名程度である。他方、阪神・淡路大震災の揺れの大きさは、800 ガル程度であったと言われているが、直接死だけで 5000 名を超える死者を出した[3]。地学的に意味のある大きな出来事と社会的な事件の大きさが必ずしも比例関係にないため、ジオツーリズムのガイドが説明を試みたとしても、ツーリストは実感できない可能性がある。

(2) 誘客の難しさ

また、仮に、東日本大震災のように、多くの死を経験した現場であっても、それがツーリストを惹きつけられるかは甚だ不明瞭である。死者を多く出してしまった地域をツーリストが訪れるこについては、それ自体の妥当性が検討されなければならず、観光の対象として消費されるにはまだまだ時間がかかる可能性がある。同時に、津波や地震の教訓を伝える旅は、その企画自体がその地を天災の発生地として印象付ける危険があり、そんな危険などころにわざわざ行かなくても良いのではないかという風評被害を招くことがある[4]。

(3) “地球を楽しむ”ことの困難性

実は、日本における高校地学の履修率が低いため、そもそも地質的現象に興味を持つ層がどのくらい存在するのかが読めないという問題もある。

加えて、ヨーロッパには洞窟学などの伝統があり、教養階層が地質を楽しむ文化が根付いている。他方、中国でも奇岩を中心としてそれにまつわる伝説を聞くという遊びは数千年というスパンで続いており、中国の地質公園に行くと、ちょっとした岩それぞれに興味深いストー

リーが関係付けられていることに驚かされる。我が国について考えてみると、あまりこうした習慣がなく、余程の景勝地でなければ岩にまつわる伝説を聞くことが出来ない。

現在、ジオパークがもたらす観光への波及効果が大きく期待されてはいるものの、こうした文化的な背景がない日本でどこまで好影響を生み出すのかは予想しにくい。

(4) 人材の問題

高校での地学の履修者が少ないという論点とも関係するが、特に地方においてジオツーリズムを実質化させるための人材が不足しているという問題も大きい。既に言及した中越地震関係では、地質的にも極めて興味深い現象が数多く見られるが、中越防災安全推進機構サイトには、ジオツーリズムの観点から現地を見学するツアーの仕組みがない[5]。

4. ジオツーリズムの今後

前節では、確かにジオツーリズムに多くの懸念があることを述べているが、それでもやはりこの新しい観光形態には多くのポテンシャルがあると感じている[6]。ここでは、前節の項目に合わせて、対応を整理したい。

(1) コンテンツの整理

ダークツーリズムの享受者は、元々地域に対する興味や関心が強いため、地形や地質がその地域の形成にどのような影響を与えてきたのかという観点からの解説があれば、ジオへの興味も湧くであろう。必ずしも地質学上の大きな出来事がダークツーリストの琴線に触れるわけでもないため、この辺りはジオの関係者にコンテンツの整理をお願いしたい。

(2) ダークツーリズムとのコラボレーション

死の経験を持つ場を旅の対象として訪れる営為は、既述した通りダークツーリズムの定義の根幹をなす。ダークツーリズムは、地域の悲しみの記憶を受け継ぐという重要な価値を有しているが、この意義を啓発することによって、被災を経験した場への旅は広がりを見せるかもしれない。

また、さまざまな防災教育が災害時に有用であることを示すことで、被災経験を持つ地域への旅は増加することも予想される。防災教育とリンクしたジオツアーの開発は、ダークツーリズムを含めた観光の活性化という面からも待望している。

(3) 楽しみの対象としての地球

前節(3)で指摘した問題点の解決については、地形や地質を楽しむ文化を涵養することが重要になろう。大学入学以前の総合学習の時間で地学的な楽しみを享受する仕掛けを用意したり、大人に対しても宝石への関心などから地質そのものへの興味の誘導ができればジオファンの裾野が広がるであろう。

(4) 大学の役割

地方大学の理学部・教育学部における地学系教室の地域貢献として、ジオパークは大きな潜在的な力を有している。学生と教室を巻き込んだ大きな地域のうねりとして、ジオパークを視野に入れた地域連携が進むことを望む。

5. おわりに

筆者は、2012年に雲仙で開かれたユネスコの世界ジオパーク会議に参加したが、そこでは、ジオパークについて

て防災教育への貢献を望む研究者、観光資源としての期待を語る事業者、高校の地学教育への好影響に言及する先生方などなど、それぞれが自己の立ち位置からジオパークに幻影を抱いているのではないかと感じることもあった。但し、ジオパークを通して地域活動が活性化したことは確かであるため、この新しい仕組みを実効的なものにするための一つの視点として、ダークツーリズムが新しい示唆を与えることを願っている。

謝辞：本稿を執筆するにあたって、長崎大学の深見聰准教授から有益な示唆を頂いた。篤く謝意を示したい。

参考文献

- [1] 深見聰：『ジオツーリズムとエコツーリズム（地域づくり叢書、3）』、古今書院、2014
- [2] 井出明：「ダークツーリズムから考える」、東浩紀編『福島第一原発観光地化計画』、144-157、ゲンロン、2013
- [3] ニュートン・コンサルティング株式会社：ガル
<http://www.newton-consulting.co.jp/bcmnavi/glossary/gal.htm>
(2015年5月8日確認)
- [4] 井出明：「海外観光地における被災者に対する記憶のゆくたて：インド洋津波における邦人の慰靈を手がかりに」『地域安全学会梗概集』、(28), 63-64, 2011
- [5] 中越メモリアル回廊：観察のご予約
<http://c-marugoto.jp/observation/index.html> (2015年5月8日確認)
- [6] 深見聰：「ジオパークと観光振興：地学・自然地理学教育の視点から」『日本観光研究学会全国大会学術論文集』、(25), 257～260, 2010